

## 審 議 会 会 議 録 要 旨

会 議 名 称	第8回伊那市総合計画審議会
日 時	令和5年11月9日(木) 午後1時30分 から 3時30分 まで
場 所	伊那市役所 多目的ホール
出 席 者	委員22名(欠席者6名)
議 題	(1)基本計画第5章・第6章について(確認) (2)土地利用計画について(協議)

### ○協議事項

- (1)基本計画第5章について(確認)
- (2)基本計画第6章について(協議)
- (3)土地利用計画について(説明)

### ○主な意見・質疑

#### (1) 基本計画第5章・第6章について(確認)

(委員)

資料1-2-1のP129に掲載されているまちづくり指標(KPI)の「1人当たりの都市公園面積」は、現状値7.97㎡/人を8.12㎡/人に増やすということだが、公園を増やすという認識なのか、どのような意味か教えてほしい。

(都市整備課長)

確認して回答する。

#### (2) 土地利用計画について(協議)

(委員)

P22の長谷地域の【現況と課題】の中に「地域の中央を三峰川が縦走しています。」という一文があるが、川が縦走するという表現に親しみが無い。縦走というと山に使うイメージ。川であれば横断等のほうが読みやすいのではないかと。もしくは、流れていますでもよいと思うがいかがか。

(企画政策課長)

確認し、よりわかりやすい表現に修正をするよう検討する。

(委員)

P1の 第1節 現状の中に「木材価格の低迷等に伴い、適切施業がされていない森林の増加など」という一文があるが、価格の安い外国産材が入ってきたので、価格の高い国産材を使わなくなったのではないか。現状を見ると、林業業界に若い人達が入ってきたので、森林整備も徐々に進みつつあるので、その辺を踏まえて表現を少し変えてはどうか。

(農林部長)

戦後、昭和の時代に比べて、現在の木材価格は低迷していると考えます。また、外国産の安い木材が入ってくるために、余計に国産材の需要が下がり、価格が下がってしまう面もあると考えるので、違和感はないと思うが、いかがか。

(委員)

その認識は違うのではないかと。これまで住宅関連の仕事をしてきたので申し上げるが、国産材が下がったのでなくて、コストを下げるために安い外国産材をたくさん使ったのである。お金のある人は国産材を使う。一様に国産の材木価格が下がったわけではないので、実際の価格変動を把握したうえで、少し表現を変えられてはどうか。

(農林部長)

当方の認識不足と受け止め、価格推移等の確認を行い、修正を検討したい。

(委員)

P3の第1節 市域の適切な管理保全と有効活用に向けた土地利用の中に「地域が公共交通ネットワークで結ばれることによって必要な機能を享受する取組を進めます。」という一文があるが、もう少し平たい、わかりやすい表現はないものか。

(企画政策課長)

わかりやすい表現がないか、内容を確認し、検討したい。

(委員)

青崩峠のトンネルも貫通し、三遠南信自動車道の整備がだいぶ進んできた。地図を見ると、152号線沿いを作ってきているが、高遠・長谷には152号線が通っている。飯田のほうへ曲がらずにそのまままっすぐ来ると長谷に入る。この計画では、おとなしく表現をして整備をしようというふうに書いてあるが、もっと積極的に静岡の方から観光客を呼ぶため、トンネルをつくって高速道路とまではいかなくともバスがすれ違えるだけでもよいので、そういう道路を作ればよいのではないか。飯田へ折れ曲がって上って中央道をくるよりも、伊那へ直接入ってくる道ができることを考えて、もっと表現を積極的なものにするべき。

それからもう一つ、戸草ダムについてだが、今、ダムは人を呼ぶことができる。エネルギー開発だけではなく、見せるダムをつくるということを積極的に打ち出して行って、人を呼べる長谷・高遠地区にしたい。そんな向きの文章に変えられないか。

(都市整備課長)

持ち帰って検討したい。

(委員)

前期計画の冊子の最後に「この冊子は、一部あたり1,791円がかかっています」と記載されているが、これは意味があるのか。全戸に配布するとなると、現在は28,500世帯くらいあるため、5,700万円くらいかかることになるが、全世帯には配布していないと思う。全世帯に配布していないのに、1,791円かかっていますと言われても、一体、何冊作ったのかとなる。この数字をいれて意味があるのか。この冊子はどれだけの部数を発行して、一部あたりいくらになったと記載するならばよいが、そうでなければ記載する必要はないと思う。

(会長)

ダイジェスト版を作成し、全戸に配布したと記憶している。金額を載せた経緯を回答できるようにお願いしたい。

(企画政策課長)

財政部局から示されている方針に従い、冊子を作成するのにかけた費用を記載しているが、作成数も記載するか検討していきたい。

(会長)

この冊子のことだけでなく、市役所全体のこととなると思うので、財政部局になるのかも  
しれないが、検討いただきたい。

(委員)

資料No.2の整理番号17番の意見についてだが、「現在も水路の補修など、線的な土地  
改良事業が継続しています。」という表現になっているが、水路だけではなく、道路や圃  
場等の総合的な土地改良が継続しているので、表現を再度、検討いただきたい。

(都市整備課長)

文面上、水路の補修ということで記載をしているため、線的という表現をしている。今、  
意見でいただいた要素もあるため、そちらを含めて検討したうえで回答したい。

(委員)

事業計画をきちっと記載することは大変重要なこと。そうした点は工夫して書いてある。  
様々な計画に目を通しているが、地域区分については、諸計画間の一貫性、整合性が  
弱い。都市計画マスタープランや立地適正化計画等では、大体、9地区や10地区に分類  
されるが、この計画では、隣接地域が一緒になっていたりするので、読んでいてわかりに  
くい。この土地利用計画が本当に未来の展望を持っているのか、疑心暗鬼である。具体  
性はないにしても、基本的な骨格として何をしたいかが曖昧。右岸だ左岸だ、集落だ集  
落地だと、言葉について地形学的の専門的な把握ができていない。もう少し、精度の高  
い内容にしてもらいたい。そのためにどうしたらよいかと言えば、私は、20年間地域協議  
会の委員を務めていたが、一度たりともこうした計画を審議することがなかった。地域を踏  
まえて練り上げて、それを地域で共有して実施していくというスタンスを持ってもらわな  
いといけない。

何部発行するかとか、概要版の話しが出ていたが、問題は、これだけ時間や手間をか  
けて作り上げてきた計画をどれだけ市民に共有していくかというところ。行政の姿勢として  
そこが問われるところで、いくらかかったということは二の次で、必要ならばもっと予算をつ  
けてでもこの計画を地域協議会等で訴えることが重要。地域を意図した計画を練り上げ  
ていかないと残念なことになる。

解説等に計画名を記載している場合は、制定年度を記載しないと意味がない。年度が  
入っていないと、いつ作成されたものでこの計画にどう反映されたのかがわからない。

ため池は、平成31年度に国で法律を作った。今までのように農業用水だけではなく、防災や観光地としての利用が示されており、ため池の見方がいろいろと変わってきている。そうしたものは積極的に計画の中に取り入れていかないとではないか。長野県内でも観光客が集まっているため池が何か所もある。先ほど意見で出ていたダムもそう。ダムも楽しめる場所。こうしたことをどうやって地域で共有して消化していくか、上位計画として、基本姿勢を示してもらいたい。

(会長)

色々なご意見をいただいた。整理をして次回ということになると思うが、どの程度変更できるかについて市の考え方もあると思うので、その辺も含めて回答してもらいたい。中には、根本的に変えなくてはいけないようなものもあり、委員の意見に沿った答えになるかと言えば、難しいと思われる。

(委員)

第6章にも出てきたが、土地利用計画のP3に低未利用地という言葉が出てくるが、税制改正で創設された中心市街地等の空き地等を譲渡する際の税控除制度によってできた言葉で、ほぼ造語である。ここ以外ではあまり使われない単語なので、用語解説に入れたほうがよいのではないか。

(都市整備課長)

用語の説明を加えるように検討したい。

(委員)

他の委員より事前意見の提出もあったが、P13に掲載されている地域区分の考え方について、自然的、社会的、経済的条件及び歴史・文化的条件を考慮して区分したということであるが、私も天竜川、三峰川で区切られた地理的条件がかなり排除されてしまっていると感じた。私は西春近在住だが、地元の人達の間では、春富3地区(富県、東春近、西春近)は春富中学校に代表されるように、不可分な地域として一体化されている。親戚関係も多く、学校はまとまっており、古くから交流の多い地域。JAでは、この3地区を一つの支所にまとめて運営している。この先、益々、少子高齢化してくると、さらに集約化していかなければいけないとは思いますが、春富3地区でまとめるのが、農地利用、土地利用等において親和性があり、一番理に適っている。しかし、この区分だと道路行政には大きな課題があり、伊那谷は南北には幹線道路が走っていて非常に良いが、東西を結ぶ道路に

については、春富3地区ではこれが非常にネックになっている。東西に跨る生活道路も増えたものの、橋へ出ていくのが大変であり、天竜川を横切って人々が行き来することへの負担感を口にする方も多く、いろいろなところに影響してくるので、自然的、社会的、経済的条件及び歴史・文化的条件を考慮したうえで、適した区分を改めて考えていただきたい。ただし、前期計画からこの区分であり、後期計画で変えるわけにはいかないと思うので、5年後の策定の際に検討いただければと思う。

(企画政策課長)

たしかに春富3地区は交流も多く、中学校区も同じこともあり、親和性が高いことは認識している。土地利用計画は最上位の計画であるが、これに基づいた都市計画マスタープランでは、さらに細分化し10地区に区分して計画している。そういった経緯と、自然的、社会的、経済的条件及び歴史・文化的条件を踏まえて、5年後の第3次計画の策定時に改めて検討したい。

### (3) その他

(会長)

次回が最終回となるが、これまでいただいた意見を踏まえての全体まとめとなるため、委員の皆さん一人一人から、本日の範囲だけでなく、序章からこれまでの全ての範囲において意見があれば出していただきたい。

(委員)

土地利用計画の地域区分が問題かと思う。竜西地区において周辺市街地という言葉が多く出てくるが、この周辺市街地はどこを指すのかが広すぎる。周辺市街地の土地利用と市街地から西の土地利用と、伊那北の西の土地利用はだいぶ違っていると思う。

伊那(竜西)・西春近地域の文章が前期計画とほとんど変わっていない。変わっているところがあるとすれば、スマートインターができて、周辺の土地利用がかなり変わってきていることについて方向性をうたっていること。これまではここに優良農地の保全が書かれていたが、「優良農地を保全するために農業振興地域整備計画の総合見直しを進めていく必要があります。」という一文が抜けた。これを抜いた意図をお聞きしたい。

また、【現況と課題】では、「市街地の周辺には、ほ場整備された生産性の高い農地が広がり、また、広大に広がる田園風景は良好な景観としての役割を果たしています」と記載されているが、【土地利用の基本方向】では、小黒川スマートインターチェンジができた

ためであろうが、「新たな住宅地や商業地等の開発・整備を検討します。」に変わっている。あのあたりは原田井という優良な農地であり、非常に大きなお金をかけて整備された田園地帯であるが、それが今は小黒川スマートインターチェンジができたために住宅地や商業地としての開発を行っていくという計画になっている。市街地周辺の農地についてどう考えていくか方向性がしっかりとあって計画が綴られていくべきと思う。

(委員)

5年前に私はこの計画を読んだ記憶がない。概要版を配布すると思うが、この内容の検討もさせてもらったほうがよいのではないか。今の流れでいくと、本編だけ作って後はお任せになると思うが、一番肝心なのは、どのような内容で配られるかによって、市民が受け取る印象がまるで変わる。できれば、概要版の内容を確認させてもらえたらいいと思う。実際にそういったことはできないかと思うが、こうした意見もあるということで承知しておいてもらえればと思う。

(委員)

せっかくいい総合計画ができあがったので、これをどう市民に伝えていくかが重要だと思う。日頃、考えていることがよく表れているいい計画になっていると思うので、どう浸透させていくかがカギになる。今までのやり方だと、区を通してになるが、この方法では若い人達に浸透しにくい部分もある。区を通すことももちろん必要だが、直接若い人たちに響くやり方ができないか考える必要がある。

(委員)

土地利用計画に構想図が掲載されているが、この地図をもっとわかりやすくするともっと伝わりやすいのではないかと思う。

(委員)

仕事で関わっている障害者・高齢者の権利擁護について意見を述べさせてもらったが、検討に基づいて検証がされることが大事だと思う。

(委員)

今、三峰川で一番問題になっているのは、戸草ダムのこと。自然に影響を与えるダムは作らないほうがいいのか、しかし、このところの災害の増加によって必要となっているのではないか、というところが議論となっている。三峰川の源流に行くとイワナを見た

ところ、尺イワナがいっぱいいた。そうした環境を守らなければいけないのが、我々の団体のとしての立場。その辺のことがこの計画に入っているのか。

(委員)

伊那市社会福祉協議会として関わりが深いのが、第3章。その中でも特に地域福祉、高齢者福祉、障害者福祉、生活援護、子育てという分野でいろいろな活動をしている。この計画の中で社会福祉協議会と連携して、協力してということが明記されているので、そのことをしっかりと理解し、審議会の中で委員の皆さんからいただいた意見や指摘を、社協としても十分に踏まえながら、行政と協力して取り組んでいきたい。また、今後、下位の計画策定に社協として関わらせていただくので、今回のご意見等を十分に承知したうえで各担当が計画策定に関われるようにしたい。

(委員)

これまでの会議の中で意見は充分に出させていただいた。守備範囲の広い議論に参加させていただき、私自身、勉強になった。

(委員)

上伊那森林組合もだいぶ若い人達が入ってきてくれて、山林の整備を進めている。SDGsにも関係するが、ペレット工場も増設することになり、益々、地域産材を利用して進めていきたいところ。また、地域の山林の再生・保全を主に高遠地区、西箕輪地区で進めている。計画の中にも一部記載があるが、地域産材の活用を是非進めていきたいと考えている。

(委員)

先日、高遠城址公園のもみじ祭りが開催され、今年は、高遠高生が高遠の唐辛子を使ったポップコーンを作って売り出したが、これがよく売れた。何のためにやったのかと言うと、地域内の城址公園で開催されるイベントで、地域の伝統野菜を使って稼ぐということを高校にいる間に体験してほしい。若い人たちが、将来、伊那にいても稼げる、東京等に行かなくても、地元がいい素材があって商売ができる、ということを感じてもらえれば、人の流出の抑止になると思う。計画に反映することでないかもしれないが、計画に落とし込む作業のところ若い人がいたらいい。さらに言えば、審議会にも若い人や主婦等のもっと多面的な人がいるといいと思う。

(委員)

子ども達が伊那の外へ出て行ってしまっていて帰ってこないということが、長い間、課題とされている。そうした中、キャリア教育を充実させたり、この計画の中にも出てくるが、自分達の地域の歴史や文化を探究を通して学ぶことを大事にしてきたので、これからも大事にしていかなければいけない。

審議は多岐にわたる内容であり、理解が難しいこともあったが、その都度、解説や関連のことを説明いただき、理解することができた。

(委員)

公民館は地域と直接結びついている場所。部活動の地域移行については、これまで中学校ですべてを行ってきたものが地域に放たれる。これは非常に大きなことで、教育委員会や文化スポーツ部がリーダーシップをとっていかないとなかなか進まないのではないかと。行政は縦の方向はいいが、横が繋がらないので、今回の地域移行では、横の連携をしっかりとって進めてもらいたい。

伊那市は、市長が食料やエネルギー等の自給をしていくと言っているが、土地は限られている。それに対して農地をどのくらいにするのか。産業を増やすために産業用地に土地を多く使うとか、道路を作る、住宅を作ると、それぞれの部門でがんばっていると、市全体のバランスがどうなるのか。私の目に入るのは、近くの農地が無くなっていく様子。市全体の土地利用構想として、この用途でこれだけ使うといったところが必要ではないかと感じた。

(委員)

先日、スポーツ庁長官から部活の地域移行は現行通り進めていくということが発信された。小学校3年生、4年生、5年生あたりの保護者が、どうなるのか、どうしたらいいかと真剣に聞いてくるが、私達は、現状では即答できない。関連する組織の皆さんと重々話し合いを持って進めていかなければならないので、知りえる限りの指導者と話しをしてきているが、今までやってきたとおりのことで精一杯だという方が多い。しかし、国で決定していることであるので、なんとかしなければいけない。伊那市以上に進んでいる市町村もあるので、皆さんの力を借りながら、行政と一体となって進めていきたい。

都会から農村部に移住したいという方がいるが、買いたい土地等があっても手に入らないことがある。農地を購入することが難しいことが移住のネックとなっていると感じる。

(委員)

基本構想の中で、この基本構想は長期展望に立って、本市の将来像を定め、それを実現するための施策の大綱と書いてある。これだけ皆さんの時間を使って意見をもらって完成するものであるので、市民の皆さんに積極的に周知を図っていただき、将来像の実現に向け、市で引っ張っていただくとことを期待する。

(委員)

産業界を代表して参加させていただいているが、産業界で一番の課題となっているのが、企業が持続的に成長するために資する人材の流出である。若い人材が都市部に流出しているという話があるが、一方でこのエリアがよいと移住してくる人材もいる。私の会社にも県外から移住してきた社員がいるが、地域のことがわからないという声が多く聞かれる。この計画は、多岐にわたって、様々な歴史的な背景も含めて議論されたうえで、できあがろうとしているが、伝わらなければ意味がない。会社には若い社員もいれば、年配の社員もいる。同じように伝えても、世代によって、またはその人によって、伝わり方が大きく違ってくる。企業は方針をきちんと伝えきるために時間をかけ、手を変え品を変えて伝える努力をしている。企業も10年のビジョンや3年の計画、単年の計画等、いろいろな計画を持っているが、計画をたてたから終わりではなく、計画をたててから時間がたてば環境も変わってくるので、一年一年、ローリングして環境変化に合わせて見直しをかけていくことが必要ではないかと考える。そうでなければ、なかなか計画したことが実現しないのではないかと。この計画は、未来への手紙だと思うので、特に若い皆さんへちゃんと伝わるように、難しい内容をかみ砕いて伝えていく努力をしていただきたい。

(委員)

他の委員の見識深い意見を聞けるいい機会だった。また、短期間の間に長期に亘る全体的な計画を俯瞰できるというのは、非常に貴重な機会であった。多くの人、特に若い人にこうした機会があることを知ってもらいたいし、いろんな人にこうした場を設けてもらえたらいいのではないかと。5年後の次期計画の策定に向けて予備審議をしていく等があってもいいのではないかと。

伝え方についてだが、脳科学的に、文章で理解しやすい人、映像で理解しやすい人、耳で聞いて理解しやすい人等、理解の仕方は人によって違う。行政等は勉強して大学を出てという人が多いので、文章を読んで理解するのが強い人が集まっているが、全人口からするとその割合は低い。だから、本を読むよりもテレビやYouTubeを見る人が多い。情報認識の仕組みの違いなので、文章で発信することが、文章で理解するのが得意な人の

エゴになってしまうかもしれない。今の時代は、受け取る側が受け取りやすいものが何かを調べて発信していくことが必要ではないか。ワークショップなどでもグラフィックレコーディングを用いて、視覚的に伝えたりしているので、概要版は絵にして、子どもでも文章が読むのが苦手な人でも伝わるようにしたらどうか。江戸時代に日本人の識字率があがったのは、手毬唄や漫画によるものだったという経緯もあるので、伝わりやすさを考えて発信を。

(委員)

この計画をどうやって市民に伝えていくかが課題であるため、ダイジェスト版もわかりやすくつくったほうがよい。

我々の審議会でも審議しているが、伊那市では農地転用が多いので、農地、農村と景観を守ってく立場との間に挟まれて大変苦慮している。今後も伊那市が総合計画と土地利用計画に沿って施策を推進していくわけであるので、私どもも行政と一緒に伊那市の将来を考えていきたい。

(委員)

いよいよ長野県が現代史を編集することになった。これまで手付かずだったが、県議会の全会一致で実施が決まった。南箕輪村や箕輪町、岡谷市も編集するようだ。伊那市も令和7年度までに4冊、全体では9分野19冊の刊行を予定している。私もその編集委員であり、こうした場でいろいろな方の貴重な話を聞いたが、また編集の過程において、お願いしたり教わることもあるかと思うので、ぜひご協力をお願いしたい。歴史を編むということは、いろいろな方のいろいろな話に耳を傾けて、市民に根ざしたものにしなければいけないと思っている。

(委員)

4年前に伊那市に移住してきたが、実家は千葉県にあり、伊那に来る前は松本市にいた。当初は山が好きで、松本市のほうが仕事をしやすいと思い、松本市へ移住したが、暮らしてみると都会すぎると感じ、もう少し自然に近いところに住みたい思いから伊那市へ来た。今回、審議会に参加させていただいて、はじめに(序論)から基本計画までを見て、委員の皆さんの意見を聞き、景観を大切にしたいという思いが共通認識であるということが知れてよかった。伊那に4年間住んでいるが、西箕輪側から見る南アルプスや、竜東地区から見る中央アルプス等の景色が本当に美しく、松本市でも北アルプスが見えるが少し遠い。伊那から見える山々の景色はすばらしいので、この先もずっとあってほしいし、こ

の景観がこれまで守られてきたのだなど資料や皆さんの意見を聞いて実感した。この計画が完成し、市民の皆さんに浸透していった、その先の計画にもこの部分は引き継がれていったほしいと願う。

最近、木曾の馬籠宿に行ったが、平日にも関わらず混雑しており、外国人が9割ほどいる印象だった。皆さんバックパックを背負っていて、馬籠宿と妻籠宿の間にあるサムライロードを歩きに来ている方が多数だった。宿場町の雰囲気も魅力的だが、サムライロードを歩くことを目的にする方が多いのを目の当たりにし、今ある伊那の魅力を引き継いで、うまく伝わることでインバウンドの誘致につながるのではないかと思った。木曾と伊那は近いので、木曾を訪れた外国人を伊那に引っ張ることもできるのではないか。この審議会に関わることでそうした希望を感じることができた。

#### (委員)

教育に関して少し薄いという感覚がある。土地利用やインフラ整備等が非常に濃密に書かれているが、教育はもう少しかと感じる。私の所属する商工会議所では、教育再生や中心市街地活性化に取り組んでいる。伊那小を移住の目的にする方が結構いて、30人も40人も移住してきていると聞く。私も子ども達が小さい時に伊那小が良いと思い伊那市に来た。しかし、伊那小は非常によいが、その後の中学校や高校、大学は普通の学校と変わらないところを見ると、伊那小のためだけに来てがっかりして帰ってしまうこともあるのではないかと思う。教育委員会と行政との加減もあると思うが、子ども達の将来のためであり、将来のための総合計画であるので、5年後、10年後、20年後を見据えて、教育にもっと力を入れてよいと思う。伊那小はいいところであり、伊那中、伊那北高校、信州大学と、近辺に学校は揃っているのもう少し濃い記述がされれば良い。

市の職員の皆さんも多岐にわたる作業であり、大変であったと思う。あとわずかな期間であり、委員の皆さんの意見を全て取り入れるのは難しいと思うので、基本方針ということで整理をしていただきたい。基本方針を明らかにして良い総合計画を作成いただき、市民に示していただきたい。

#### (会長)

前期計画があつての後期計画であるので、ある程度、前期計画の縛りがあると思うが、その中でも、これから5年間を方向付けるものであるのもう、画期的な部分も必要だと思う。皆さんからいただいた意見を大事にさせていただくように事務局にお願いしたい。

計画に記載するのは、これから先の将来にわたっての事業であるので、ネガティブな内容や消極的な内容になってしまわないように、計画として明るい未来を示すようなものと

なるようにしたい。委員の皆さんからはそういった意見を頂戴したので、それを踏まえてまとめていきたい。